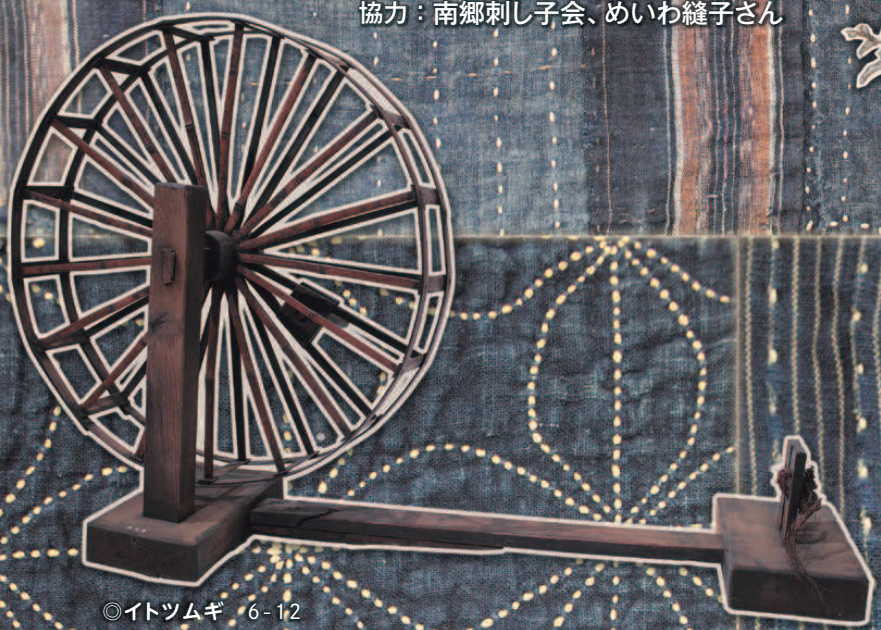
ただみ・モノとくらしのミュージアム 第3回企画展

奥会津の着る民具〈布〉

―糸づくりから現代まで―

2024 7/20(土)～2025 2/11(火)(祝)

主催：ただみ・モノとくらしのミュージアム
協力：南郷刺し子会、めいわ縫子さん



◎イトツムギ　6-12

シラガミ講の蚕神像
（只見町大倉区蔵）

背景画像
上：◎サシハダッコ（表）9-192
左下：◎サシコハンテン（表）9-145
右下：◎カリアゲユッコギ（表）9-49
◎は国指定重要有形民俗文化財

ただみ・モノとくらしのミュージアム

入館無料

ただみ・モノとくらしのミュージアム
〒968-0602 福島県南会津郡只見町大倉字窪田30
TEL.0241-86-2175
E-mail: mono_kurashi_museum@ hyper.ocn.ne.jp
https://www.town.tadami.lg.jp/museum/index.html

〈ご利用案内〉
開館時間　9：30～17：00（入館は16：30まで）
休 館 日　月曜日（祝日の場合は翌平日）
　　年末年始（12月29日～1月3日）

ただみ・モノとくらしのミュージアム第３回企画展

奥会津の着る民具〈布〉—糸づくりから現代まで—

只見町には、町民参加の「只見方式」により整理された約10,000点の民具コレクションがあります。そのうちの2,333点は国指定の重要有形民俗文化財で、416点の仕事着を含みます。
2024年は、第３回企画展「奥会津の着る民具〈布〉—糸づくりから現代まで—」を開催します。山仕事や田畑仕事の時、暑さ寒さ、陽ざしや風から身を守ってくれるのが仕事着です。袖や裾が長い着物では、外仕事はしにくいでしょう。動きやすいのは、筒袖で裾の短い上衣（シゴトシ・ジバン）、袴の一種である股のある下衣（ユッコギ・ホソッパカマ）、これが日本に古くから伝わる働く着物、仕事着です。

プロローグ 現代に生きる仕事着の技

現代の仕事着の技と彩りを紹介します。奥会津には仕事着を作る技を伝え、仕事着を着る活動があります。南会津町南郷地区の〈南郷刺し子会〉と只見町明和地区の〈めいわ縫子さん〉による着る民具づくりの活動を紹介します。現代の暮らしを彩る知恵と技をご覧ください。

南郷刺し子会

南郷刺し子会の会員番号1、絆纏番号1の作品。このサシコハンテンが会結成のきっかけとなりました。

めいわ縫子さん

手ぬぐいを反物に見立て制作したユッコギ。めいわ縫子さんの最初の活動は、手ぬぐいでのユッコギ再現でした。

第1章 只見の糸づくり・布づくり

只見でおこなわれていた糸づくり、布づくりを展示します。仕事着の素材は麻・木綿などの自然素材です。只見で栽培されたのはカラムシ（苧麻）とアサ（大麻）で、その糸から布がつくられました。また、養蚕がおこなわれました。

◎オボケ（麻桶）6-95
細かく裂いた麻を撚り継ぎしながら績んだ糸を入れておく曲物桶。

イトワク（糸枠）M1334, M1335
糸を巻いておくための木枠。イトトリワク（糸取枠）ともいう。絹糸や麻糸を巻いた。

第2章 只見の仕事着

当館に収められて息づく国指定民具の仕事着を紹介します。奥会津の人々は自分で仕事着を作って、継ぎ当てや刺し子で補強しながら、仕事がしやすいものに工夫して、一着を長く着ました。

◎サシハダッコ 9-192 木綿
丈の長い仕事着で、寒い時期の山仕事などで着用。

◎サシコハンテン 9-145
木綿・麻
普請（共同作業）や、建前などのハレの場で着用。

背景画像
上：◎サシハダッコ（裏）9-192
左下：◎サシコハンテン（裏）9-145
右下：◎カリアゲユッコギ（裏）9-49
◎は国指定重要有形民俗文化財

◎カリアゲユッコギ 9-49
木綿（加茂縞）・真田紐
山仕事や野良仕事に着用する山袴の一種。

公共交通機関でのアクセス

- 会津鉄道・会津田島駅から
  ワゴン「自然首都・只見号」（11：05、15：00発）、「ただみ・モノとくらしのミュージアム前」下車（乗車56分）
- JR只見線・只見駅から
  定期路線ワゴン「自然首都・只見号」（9：10、13：10発）、「ただみ・モノとくらしのミュージアム前」下車（乗車23分）

※運行時刻は2024年7月現在の情報です。最新の時刻表をご確認ください。

お車でのアクセス

- 東北自動車道・白河ICから88㎞、約1時間45分
- 東北自動車道・西那須野塩原ICから92㎞、約1時間50分
- 関越自動車道・小出ICから75㎞、約1時間50分（冬期間通行止）
- 磐越自動車道・会津坂下ICから81㎞、約1時間45分